

平成22年11月8日

日本ガス協会 鳥原会長 会見発言要旨

2010年度上期のガス販売は、この夏の猛暑の影響を受け、家庭用分野では夏場の給湯需要が減少したが、商業用・その他用では空調需要が大幅に増加した。また、工業用分野においては、2009年11月以降、11ヶ月連続で対前年同月比プラスを記録している。

この先の見通しについては、気温に加え、為替レートの変動がお客さまの生産活動に及ぼす影響など、不透明な点が多々あるが、引き続き、ガス販売が回復することに期待したい。

シェールガス革命によりアメリカの天然ガス生産量が2009年にロシアを抜いて7年ぶりに世界一になるなど、世界の天然ガス市場におけるパワーバランスに大きな変化が出始めている。シェールガス革命以降、中国や欧州、さらにはオーストラリア等でもコールベッドメタンや、タイトサンドガスなど非在来型ガスの開発も盛んになってきている。今後の需要の増加を考慮しても、天然ガス資源の開発が進むことで世界的な供給状況はさらに安定すると思われる。

都市ガス事業者は、今後も安定した天然ガスの調達と供給を行っていくため、オーストラリアなど環太平洋を中心とした国々との長期契約や、上流権益の取得等に取り組んでいきたいと考えている。

「低炭素社会におけるガス事業のあり方に関する検討会」は、これまでの2回の会合が開催された。10月からは「ガスのインフラ整備」と「天然ガス燃料転換・高度利用」に関するワーキンググループが設置され、年度内の取りまとめに向けて検討が進められている。

検討にあたっては、都市ガス業界がそのポテンシャルを十分に発揮し、天然ガスシフトを推進できるよう、実効性のある施策の検討をお願いしたいと考えている。

以上